



Topic 4

社員一人ひとりが専門性を高め、能力を発揮できる組織に



外国人技能実習生の受け入れ・育成

自国では困難な技術習得が可能に

技能実習制度とは、開発途上国の方々に日本の企業で働いていただくことで、母国では習得困難な技能を習得してもらうための制度です。帰国後、習得した技能を母国の経済発展に生かしていただくことを目的としています。当社では、2016年よりベトナム人技能実習生の受け入れを開始しています。その後ミャンマーからも受け入れ

を開始し、現在424名(2022年8月時点)を受け入れています。そして、2023年度には1,000名以上を受け入れる予定です。実習生と受け入れ側のそれぞれが経験を重ね、今後も継続して実習生の受け入れができるようにしていきます。

自国で技術を生かし、国の発展に寄与

日清医療食品が誇る高い衛生管理体制と大量調理技術は、開発途上国にとっては非常に重要な技術であり、帰国後、自国でその技術を生かすことは国の発展に大いに役立ちます。実習生の皆様には、多くの食事を一度に調理するために最も重要な食品の安全性確保について、実習を通して理解を深めていただきます。



入国前育成を行う学校をミャンマーに設立・開校

日清医療食品は、技能実習生として日本に入国する前の育成研修を行うため、日清医療食品ミャンマー株式会社を設立。2022年6月13日、NISSIN HEALTHCARE FOOD TRAINING SCHOOL(YANGON校)の開校式を行いました。入国後は病院や介護施設などの食事を担う業務を行うため、日本に入国する前段階から事前に衛生概念や調理技術などについて研修する場を設けることで、技能実習生が安心して日本で実習することが可能になります。また、3年間の技能実習を終えてミャンマーに戻ってからもミャンマーの今後の発展に寄与できるよう、働きかけを行います。



除幕式後、学校外看板前にて集合写真。日清医療食品ミャンマー株式会社社員と学生の皆様



学校調理室



学校入口の看板



取り組みの背景

日清医療食品の事業は命をつなぐ食事をお届けする事業であり、専門的な資格を持った社員の手による持続的なサービス提供が必須です。そのため、今後も事業を継続していくためには優秀な人材の確保・育成が大きな課題となります。

日清医療食品のアプローチ

日清医療食品は、お客様から信頼され続けるパートナーとなるために、「専門的なスキル」と「寄り添う心」の両面から一人ひとりの能力の育成に努めるとともに、個々の人材が能力を発揮できる職場環境づくりを目指していきます。

障がい者雇用

障がい者を受け入れるために

日清医療食品は、障がい者雇用は企業の社会的責任(CSR)であることを基本とし、誰もが働きやすい職場づくりを推進することで、障がいを持つ方も多数活躍できる環境になっています。

障がい者の方によりよい作業環境で働いていただくために、障がい者に関する基礎知識をはじめ、採用・実習・コミュニケーション方法などをまとめた資料を作成し、社内でも共有しています。今後も社員の障がい者に対する理解と意識向上を図っていきます。



障がい者雇用に関する社内資料

障がい者就労センター「ハーティセンター」の開設

日清医療食品は、障がい者就労センター「ハーティセンター東日本」をさいたま市に開設しています。センターでは12名の障がい者の方々がメッセージカードなどの仕分け業務、データ入力業務、社員宛郵便物の作成・発送業務などにあたっています。また、社会人としての基礎知識を学ぶ時間を設けています。2022年には大阪市に「ハーティセンター西日本」を開設しました。



障がい者雇用数・雇用率の推移

	2019年	2020年	2021年
障がい者雇用数	942名	972名	1,136名
雇用率	2.51%	2.54%	2.90%



カードの仕分けと入力作業



ICT活用の研修風景



ホチキス止め作業